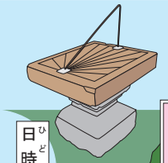
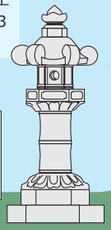
しおがまさま 境内案内図

ご参拝の皆様へのお願い
- ■境内建造物への落書や千社札の貼り付けはしないでください。
- ■山林や柵内など、立ち入り禁止区域へは入らないでください。
- ■境内は全面禁煙です。ご協力をお願いします。

『海国兵談』の著者として知られる林子平（はやし・しへい）が長崎で得た知識をもとに設計したとされ、鹽竈神社の神職で子平の親友であった藤塚知明（ふじつか・ともあき）が寛政４（1792）年に奉納しました。境内のものは複製品で、実物は博物館に展示しています。

塩竈湾と七北田川河口をむすぶ運河（「御舟入堀」）の完成にあたり、工事を指揮した和田房長により寛文３年（1663）に奉納された石灯籠。

文治３（1187）年に和泉三郎忠衡（藤原秀衡の三男）が寄進した鉄燈籠です。松尾芭蕉の『おくのほそ道』にも登場。周囲の石の囲いは、享和３（1803）年に設置されたもので、石柱には俳句が刻まれています。

社務所は、かつて志波彦神社付近にありましたが、昭和初期に志波彦神社の造営にあわせて現在地に移されました。主要部分は、近代の和風建築として高く評価されています。